



カトリック新潟教区
編集発行人 教区報編集部
〒951-8106
新潟市東大通1-656
TEL. 025-222-7457
FAX. 025-222-7467

2006年 司教年頭司牧書簡を发表

信仰の喜びの具現化を促す

菊地司教は二〇〇六年の年頭にあたり全教区民に向けて喜びの福音に生かされると題した司牧書簡を発表した。

昨年の年頭司牧書簡「多様性における一致」叙階一周年に発表した書簡「御言葉を宣べ伝える共同体であるために」を踏まえた上で、「今年はさらに一歩、私たちの共同体づくりの歩みを進めよう」と呼びかけている。

理想の教会共同体実現に向けて司牧書簡「御言葉を宣べ伝える共同体であるために」では新潟教区の二つの優先課題が示されていた。

第一は教会共同体が「一致のための場」となり、交わりと一致の『しるしであり道具』となること、第二はそれぞれの教会共同体が福音に生かされた共同体として成長し、その上で自らが福音宣教師となることであった。

この二つの優先課題を実現するために重要な基盤となるのが、昨年の年頭司牧書簡で示された、それぞれの小教区共同体の育成である。

菊地司教はその中でそれぞれの教会共同体が理想とする教会の姿は何かを様々な機会に、様々なグループで話し合うように提案していた。それは私たちが歩む方向を明確にするため

『もちろん、すべての人が何らかの活動をしなければならぬ、などは考えていません。確かにそこには目に見えるかたちでの奉仕の行動もあるでしょう。教会の何らかの役職を引き受けることもあるでしょう。小教区の様々な活動に参加することも出来るでしょう。しかし同時に、霊的な意味での貢献もそこには含まれているのです。』

仮に様々な事情から、主日に共同体と目に見えるかたちで一致することがかなわないとしても、霊的に共同体と一致することは不可能ではありません。例えば召命のために祈ることも、共同体への貢献のひとつでしょう。

それぞれの教会共同体で「理想の教会」を明確にし、その上で一人ひとりが出来る貢献を「行動計画」として心に決め、一

年を通じて実行するように心がけて下さい。』

新潟教区の第二の優先課題「福音に生かされた共同体として成長し、その上で自らが福音宣教師になること」の実現のためには、私たち自身の信仰の直しが不可欠であると書簡は呼びかける。

『そもそも自分自身が喜びを持って生きているのであれば、他の人たちに同じ信仰を勧めることは出来ません。一体自分が何を信じているのか、何に喜びを感じているのか、一人ひとりの信仰を振り返って下さい。』

私たちはどこから喜びを汲み取らなければならないのだろうか。書簡は、第十一回世界代表司教会議の最終メッセージを用いながら、共同体に属してい

るといふ感覚と喜びは、共同体で祝う感謝の祭儀と聖体からであることを明らかにした上でこう述べている。

『私たちの教会共同体において、主日の典礼は「カトリックの共同体に属しているという感覚と喜びをよみがえらせ」ているでしょうか。』

共同体の育成は、単に組織としての教会がスムーズに運営されることや、一人ひとりが活発な活動家になることだけを目標としているのではありません。そこには霊的な育成も含まれていなければなりません。

ヨハネの福音に、「あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない(ヨハネ十五章四節)」と記されていますが、仮に主日の典礼が私たちに信仰における喜びをもたらししていないのなら、枝である私たちが幹である主イエスに、しっかりと繋がっていない

いのかもしれません。典礼を豊かにすることによって、私たちの信仰は喜びに満たされます。そのためにも典礼を学ぶことは不可欠です。

単なる形式としてではなく、長い歴史の中でたびたび刷新された歴史に触れ、背景に込められた意味を理解しよう、それぞれの共同体で努力をしてください

書簡は最後に、現実社会の中で生きていかなければならない私たちが、ともすれば矛盾を感じながらも社会が優先する価値観を批判することなく受け入れ、観を批判することもあるだろうが、私たちに堅固の柱としての福音がある。一人ひとりが信仰の基礎も見つめ直しながら、この一年も主に従って歩んでいこうと結んでいる。

(司教年頭司牧書簡の全文は、全教区民に届けられている。)



菊地司教と信徒たち 新年の集い(新潟)

2006年 菊地司教小教区訪問日程

2005/12/28現在

曜日	訪問教会	備考
3月5日 日	四旬節第一主日 長岡表町教会	
5月7日 日	復活節第四主日 十日町教会	
5月14日 日	復活節第五主日 青山教会	
5月28日 日	主の昇天 十日町教会	長岡地区大会
6月4日 日	聖霊降臨 花園教会	堅信式
6月25日 日	年間第十二主日 高田教会	堅信式
7月2日 日	年間第十三主日 直江津教会	
7月15日 土	長岡福住教会	
7月16日 日	年間第十五主日 長岡福住教会	
9月17日 日	年間第二十四主日 糸魚川教会	堅信式
11月3日 金	花園教会	55周年
11月26日 日	王であるキリスト 新潟教会	

新潟教区宣教司牧評議会 設立準備会議開催へ

新潟教区信徒使徒職協議会は一月九日、教区本部で臨時役員会を開いて、五月四日(木)に教区宣教司牧評議会の設立に向けての準備会議の開催(会場は新潟カトリックセンター)を決定した。併せて同準備会議の推進委員会を設置して、五月の開催に向けて準備に着手した。

宣教司牧評議会の設立作業は、設立準備会議の後に機構や規約を含め、教区長(司教)の任命による設立委員会(仮称)が設けられて起案され同評議会は年内に設立の見通しである。

キーワード

宣教司牧評議会 新潟教区宣教司牧評議会は新潟教区全体が一つになって推進する福音宣教と司牧の精神と活動に適合するため、教会法第五一条から第五一四条に規定される「司牧評議会」の諸規定に基づいて設立されるものです。

この評議会は教区長(司教)が任命した信徒代表、修道者代表、司祭代表(いずれも現時点では人数未定)の評議員によって構成されて、新潟教区全体における宣教司牧活動に関する事柄を研究・検討し、それらについての実践的な結論を提示して教区長に上申します。

予想される活動 (一)教区内の宣教司牧に関する諸問題・諸課題の情報交換の場となる。(二)教区の宣教司牧に関して協力体制を整える。(三)教区行事等の連絡調整の場となる。(四)教区の年間計画をたて、その推進に当たる。

(五)小教区、各委員会の地域活動を尊重し、それらの独自性を奨励し、互いの連絡、状況を把握して円滑化に努める。(六)教区全体のまとめのために働く。
宣教司牧評議会設立準備会議 五月四日に開催される同準備会議は教区司祭評議会(司祭評議

新司教誕生



鹿見島司教に郡山健次郎師

教皇ベネディクト十六世は二〇〇五年十二月三日正午、鹿児島教区司祭パウロ郡山健次郎師を鹿見島司教



仙司教に平賀徹夫師

教皇ベネディクト十六世は二〇〇五年十二月十日正午、仙台教区司祭マルチノ平賀徹夫師を仙台司教に任

会)と教区信徒使徒職協議会(教区協)の連名で招集して、全小教区の信徒代表一名と全小教区の主任司祭が同席して「宣教司牧評議会」の設立について理解を深め、同会の目的遂行のための共通認識と、参加信徒、司祭からの要望や意見を設立される宣教司牧評議会に反映させるための会議です。

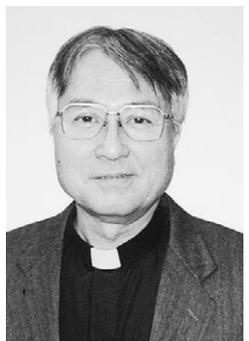
準備会議の推進委員会 この推進委員会は五月に開催する準備会議の企画、立案、開催当日の運営、審議事項、記録、まとめなどを円滑に行うために設置され、開催(五月四日)に向けての直接活動に従事します。

に任命すると発表した。新司教の叙階式は一月二十九日午後二時から鹿見島純心女子高校体育館で行われる予定。
郡山被選司教は鹿児島奄美大島出身で六十三歳。司祭叙階後三十三年間、八教会を司牧。これまで、クリスチャンライフ「コミュニティ」書記長。マリッジエンカウンターなどを担当。

命すると発表した。新司教の叙階式は三月四日午後一時から仙台白百合学園で行われる予定。
平賀被選司教は岩手県花巻市出身で六十歳。これまでカトリック新聞社編集長、宮城県南地共同司牧・兼事務局長。〇四年五月に溝部司教が高松に転任になってからは教区管理者を務めてこられた。

召し出しの道

川又巳三男神父(米沢教会)



私は中学三年のとき水戸教会でクレীগ神父様から洗礼を受けました。召し出しのことを考えはじめたのは高校三年の十八歳の誕生日に、日本へ来て間もない一人の神父様からきれいなカードと、たどたどしい日本語で書かれた長い手紙をもらった時でした。「将来いろいろな道に進むことが出来るけれど、司祭について考えてみませんか」という手紙でした。

それまで誰からも司祭になつてみないかと言われたことはありませんでした。もつとふさわしい人がいるだろう、自分は善良な一社会人として好きな道に進もうと考え、既に合格していた航空自衛隊第一期航空学生としてパイロットの道を進みました。

勉強も訓練もかなり厳しかったのですが大空への憧れと夢と希望が大きかったのです。夏休みに防府の訓練所から家に帰る途中、岡山市にある姉の所属する修道会の修道院に立ち寄り、今の生活を話しました。二人、三人の同席した一人のシスターが「空を飛ぶのは危ないでしょう。よしなさい。それよりも人々の心の中を飛ぶパイロットになったらどう。とおっしゃったのです。「来年はいよいよ空を飛ぶんです」と私

は誇らしげに言いました。しかし悔しいことに最後の身体検査のレントゲンで影が見つかり、瀬戸内海の病院で焦る気持ちで悶々と二年間の療養生活を過しました。退院しても飛行機には乗れないと言われ、誕生日にももらったカードのことを思い出して、中学校へ行ってみようと思いました。あの神父様からカードをもらったから六年後、シスターにあのようにならなければ五年後でした。

祭叙階の恵みをいただきました。司祭になるのを待っていますと雪国から手紙と祈りで励ましてくれた人達のところまでいま働かせてもらっています。

私の誕生日に手紙をくださりはじめて召し出しについて考えさせてくれた神父様は、その後、病気でアメリカに帰られましたが亡くなるまで毎年クリスマスと誕生日にはカードが送られてきました。十八歳の誕生日に頂いたカードは今も「教会の祈り」の中に大切に持っています。

召し出しの道は不思議です。私がこの道を歩んでいられるのは、実に召し出しのことを真剣に話しかけてくださった司祭、修道者の方々、そして祈りと共に心待ちしてくださった信者さん達がおられたからです。

私は思います。今の豊かな少子化の時代に召し出しについて子供に語る親。司祭になつてはどうかと真剣に祈り続けてくれたような司祭。邦人司祭の成長を待ち続け祈り続けている信者さんがどれ程いるかという事です。

司祭への道はやはり長いです。召し出しとはなんと多くの根強い人々の手によつてそれが実ることであろうかと。一司祭の願い。一シスターのひと言。何人かの信者さんの切実な願いが、このような形でわが身に実現されたという事を思うとき、神様の遠大な、そして寛大な聖心に身の引き締まる思いで、改めて召し出しのことを考えさせられるのです。

新しい年に胎動

教区司祭評議会第三回総会

新潟教区司祭評議会の第三回総会が十一月二十八、二十九の両日開かれた。議題と内容は次の通り。

- 一、宣教司牧活動のための関係機関の設置について
- 信徒教区協からの提案の宣教司牧評議会設立準備に異議はない。五月四日に新潟カトリックセンターで全小教区信徒代表と全主任司祭が集まる設立準備会議の開催を決定。
- 二、新年度の教区司祭の集いについて

六月五日～七日フォレストア

海(秋田県)で開く。テーマ(案)は「滞日外国人司牧、召命、青少年養成を予定。五月開催予定の「宣教司牧評議会設立準備会議」での意見も話し合いの参考にした。

三、教区信徒大会の反省と今後の同大会について

全体として和やか雰囲気目的が果たされたと思う。次回の二〇〇八年大会の開催も次回の司祭評議会(三月二十七日予定)で決定されたい。(本間師)

四、新潟教区一粒会と一粒会費に関する規定について

(関係規定は別記)
五、信徒の継続養成の状況について

各地区からの状況報告に続いて意見交換(小教区のリーダーを養成する講座、広く信徒を養成する講座などを継続する)。六、召命への取り組みについて

意見交換

子どもへの働きかけも大切だが、青年に何らかの形での働きかけを考えるなど。

七、外国人司牧への取り組みについて情報提供と意見交換

教区としてもフィリピン人コミュニティセンターなど相談

機関を立ち上げたい。難民移住移動者委員会を立ち上げたい。

教区の司祭の集いでも情報交換の機会を設けたい。(佐藤勤師)

八、その他

*教区中学生錬成会

八月十日～十二日、朝日村体

駿交流センター(新潟県)で開催、中学生十六人参加。聖書に親しむ、カテキズムの学習、菊地司教との対話など。司祭が直接ではなく、成長している青年スタッフたちを通して養成することを考えたい。青年たちの養成が不可欠。若者たちは本物の出会いや体験に飢えている。これからのよいものを与える機会としての錬成会でありたい。

*司教の公式訪問

二〇〇六年は新潟、新発田、長岡地区の予定

*教区報関係

年四回発行し、ことしの年間

テーマは召命の促進について

で、二〇〇六年も各地区の順で

四人の司祭が順に執筆する。

(広報担当)

鶴岡 おめでとう80歳の誕生日 マリア幼稚園創立八十周年

鶴岡マリア幼稚園(園長本間研二神父)の創立八十周年記念式典が十月十五日、鶴岡市内のグランド・エル・サンで盛大に行われた。

菊地司教司式の記念ミサには、園児、職員、保護者、来賓、イエス・マリアの聖心会司祭、信徒など三五〇人を超える参加者が共に祝い祈りを捧げた。

一三〇人ほどの園児たちが懸命に行儀良く明るい表情で式典に参加している姿が感動を呼んだ。

会場での記念コンサートは出来る限り子供を中心にした演出が配慮されて、幼稚園関係には絶大な人気の芸人福尾野歩さん

新設 召命と養成の基盤整う 新潟教区一粒会と一粒会費の規定

新潟教区司祭評議会は十一月二十八日の総会で教区一粒会と一粒会費の規定を新設し、四月一日より施行する。(現行規定は新規定の施行にともない廃止される)。新規定は次の通り。

- 一、新潟教区一粒会の目的 新潟教区一粒会は、教区司教の指導のもと、祈りと献金によって新潟教区司祭の召命と養成を助けることを目的とする運動である。
- 二、会員 この運動の主旨に賛同し、祈りと献金によって、参加くださる方が会員である。会員の特別な登録手続きはない。
- 三、会員のつとめ 会員は、日々一粒会の「召命の祈り」を唱えるとともに、毎月あるいは適当な機会に一粒会費(新潟教区司祭養成援助献金)を捧げる。献金額は会員各自が自由に決定し、小教区を通してあるいは教区本部へ直接送ることができる。
- 四、代表者 この会の代表者は教区長である新潟司教である。司教は、召命のため、また全会員ののために、月に一度ミサを捧げる。
- 五、事務局 一粒会に関する事務は、新潟教区事務局がこれを行なう。
- 六、会計と会計報告 (一)会計は教区会計が担当し、年に一度小教区を通して会員に対して収支報告を行なう。(二)繰越額は年度末に教区特別会計の召命基金に繰り入れ、年度内に不足分が出た場合は召命基金からこれを補う。なお、召命基金についても一粒会収支報告とともに会計報告を行なう。
- 七、一粒会費(新潟教区司祭養成援助献金)の使途 一粒会の目的は新潟教区司祭の召命と養成にある。従って、一粒会費はこの目的の実現のために以下の負担金や諸活動に用いられる。(一)東京カトリック神学院運営分担金 (二)新潟教区神学生の養成費用と生活費 (三)召命促進のための諸活動費用 (四)教区で行なう召命のための錬成会、黙想会の費用 (五)地区で召命錬成会等が行われる場合も、別に定める基準により費用を援助する。
- 前項関連事項(抄録)
- 前項の一粒会費の使途(五) 関連の地区が主催する召命錬成会等への費用援助の対象は次の通り。

地区が主催する召命錬成会、召命黙想会が対象となる。なお、小中高校生のための錬成会、サマースクールに關しては、これを広い意味での召命の育成と捉え、地区が主催する場合は援助の対象とする。



わあー すごい 記念ミサ

短 信
五月二十八日、長岡地区大会
開催予定
六月十一日、秋田地区大会
開催予定

能代 金祝 ミュニラ師 三〇〇人で捧げた記念ミサ

神言会司祭オスワルド・ミューラ神父(能代教会主任)は八月二十八日に司祭叙階五〇周年を迎えて、十一月三日十時三十分から秋田教会で記念ミサを捧げた。

秋田県内外からの三〇〇人近い人々と共に捧げた盛大な記念ミサの聖体拝領後には「サルヴェ・レジーナ」(聖母賛歌)を歌って、来日以来四十七年間にわたって日本のために新潟教区の宣教司牧のために働かれたミューラ神父の活躍と労苦を称えた。(経歴紹介は前号の既報参照)来賓の方々のお祝いのこ



故 山田恵尚師の葬儀ミサ 2005.10.20

とばは次の通り。
菊地司教 キリスト教を知らない人が大勢いる小さな街の教会において神様にご自分をお捧げし



300人で捧げた記念ミサ

神言会日本管区長口バート・キラ神父 今日金祝のお祝いですが、この次はダイヤモンドを迎えられるように願っています。これからますますお元気で、われわれの先輩として活躍ください。

ミューラ神父の挨拶
「私と一緒に叙階された司祭でいま残っているのは三人。どうして私が残っているのかと思いましたが、それは神様の恵みにほかなりません。」秋田の小さな教会で私たちが祈らなければ、誰がいったいここで祈るのですか。」
「ミューラ神父様は、宣教師として小さな街の教会でミサを捧げ、その地域の人々の救いのために祈ることの大切さをたびたび口にされているのです。」(桃田清明神父談)。

山田恵尚神父が帰天

— 青少年の育成に活躍 —

アロイジオ山田恵尚神父が十月十七日、午後九時二十七分帰天された。(六十八歳)

二〇〇四年十一月二十三日に悪性リンパ腫と肺炎を併発して入院手術を繰り返すほぼ一年に近い闘病生活であった。

秋田県稲川町の出身で一九六六年七月司祭叙階。白根教会主任として七年間活躍されてのち二十九年間にわたって亀田教会を司牧して、幼稚園を育て、小教区が地域社会とともにあるた

司教の日記

http://homepage2.nifty.com/Isaoymk/BishopTop.htm

二〇〇五年九月十二月
●十一月二十日(日) 王であるキリスト

新潟カテドラルは王であるキリストに献げていますから、今日は主日の中心ミサをささげました。ミサ後には新潟市内でいわゆるホームレスの方々の越冬支援をしているグループの方々が挨拶に来られました。

佐藤司教様の頃から、司教館の裏にあるピアノネ館の一階を、冬期間に限ってシェルターとして開放しているからです。今年の冬も例年通り開設することにします。

●十一月三十日(水) 上越には雪がちらほら
上越市の高田には観想修道会の聖クララ会の修道院がありま



長岡での堅信式 (12月4日)

す。住宅街にこじんまりと存在する二階建てのちよつと大きな住宅のような修道院ですが、その修院は修道者以外が立ち入り、修道者がそこを出るためには司教の許可が必要だという、「教皇禁域」といわれる厳しい一般立ち入り禁止の修院です。

その中で絶対的な観想生活を送るシスターたちは、その祈りによって新潟教区の宣教司牧活動を支えてくださっています。この修院も他の修道会同様、会員の高齢化と後継者不足に悩んでいて、所属シスターは八人ですが二人が高齢に伴う様々な病気を抱えています。

新潟教区の皆様には、どうかクララ会をはじめ教区に存在するいくつかのシスターの修道会を、毎日のお祈りの中で憶えておいていただけないでしょうか。

●十二月四日(日) 長岡での堅信式
今日は長岡で堅信式でした。長岡にはJR線を挟んで福住と表町の二つの小教区があって、それぞれ幼稚園が付属しています。

祭として一番誇りを持って生きたときであったと思われる。すべてを手放して、神のみ手にすべてをゆだねて、謙遜に苦しみを受け入れ、最後の瞬間までしっかりと自分の人生を見つめ「死」と対峙しながら苦しみを闘い抜いた山田神父様は、本物の勇氣と信仰をその「行い」で私たちに証してくださいました。」

司祭団を代表して高教修神父は弔辞で、小神学校から大神学校で一緒に学んだ思い出を語りかけて、共に働いた司祭生活と特に闘病の苦しさを思いやられて参列者の涙を誘った。

長岡の主任のブルーノ神父様は長岡の二教会とさらに中越地震で大きな被害を受けた十日町教会の主任を兼ね、日曜日には南魚沼市浦佐にある大学の外国人留学生のためにミサをささげに行くという超人的な働きをしておられます。

二つの教会の合同堅信式は表町教会の聖堂で行いました。おめでとうございました。前日の土曜日の夜に七人の受堅者をはじめ信徒の方々も集まって待降節の黙想会をしました。